

菅田駅前線と駅前広場について

菅田駅南口駅前広場を含む菅田駅前線の整備は、駅へのアクセス強化や歩行者の安全確保が図られるなど、菅田のまちづくりにとって欠かせないものであります。この整備により、特に駅前の商店街がリニューアルし、人が集まり、新たな賑わいと活気あふれる街並みとなることを、地元の人たちは、強く望んでおります。

【質問1】 平成30年度の菅田駅前線「土気側」及び「南口駅前広場」の用地取得見込みについて

（答弁）建設局道路部 街路建設課 菅田駅前線の「土気側」を優先に進めておりますが、一部の地権者から、駅周辺の代替地を望まれており、地権者の意向に配慮し、今後は千葉側の事業用地を含めた駅周辺の用地取得や代替地の確保に努めて参ります。



菅田駅南口広場 完成予想図

強く要望いたしました

菅田駅前線については、約7割の取得見込みととなり、かなり進むこととなります。何より地元の人たちは、新たな菅田の顔となる菅田駅南口駅前広場、そして菅田駅前線の完成を心から待ち望んでいます。そのために早期に用地取得を完了させ、なるべく早く工事に着手できるように強く要望いたします。

有害鳥獣（イノシシ）について

近年、全国の鳥獣による農作物被害は、200億円前後で推移し、被害防止対策が大きな課題となっております。千葉県では、平成28年度の被害額は約4億6,000万円と、前年より約18%増加しており、特にイノシシによる被害は深刻で、被害額全体の55%を占めるまでに至っております。

【質問1】 イノシシによる農作物被害の推移と対策の現状について

（答弁）経済農政局農政部農業生産振興課

イノシシによる農作物被害は、緑区でイモや野菜、豆類を中心に発生しており、初めて被害が確認された平成25年度には約16万円だったものが、28年度には91万円にまで増加しており、今後の増加が危惧されるところであります。農作物被害を食い止めるには、捕獲による個体数の減少が効果的な対策であり、本市では、25年度より「箱わな」による捕獲を開始し、29年度までに15基を設置し、現在までに10頭を捕獲しております。

さらに、26年度からは、畑などへの侵入防止対策として、電気柵の設置を進めてきており、農作物への被害防止の強化と被害軽減に取り組んでいくところであります。

また、高齢化により猟友会会員が減少する中、新たな捕獲従事者を確保するため、有害鳥獣の捕獲に必要な狩猟免許の取得について助成を行うとともに、緑区に隣接する市原市と連携し、捕獲方法について意見交換や出没状況などの情報共有を行いながら、周辺地域からの侵入防止と対策強化を図って参ります。

【質問2】 イノシシ対策の今後の取組みについて

（答弁）経済農政局農政部農業生産振興課 本市では、JAや

保育所および子どもルームの整備について

報告いたします

菅田東小学校の子どもルーム設置に向けた調査費(400万円)が本年度予算計上されました。早期設置に向けて働きかけて参ります。そして、待機児童解消に向けて新設備や新施設の整備に向けて取り組んで参ります。

みず和夫プロフィール

- 千葉県議会議員6期目
自由民主党千葉県議会議員団(所属会派)、環境経済委員会、千葉県議会日中友好議員連盟会長、千葉県都市計画審議会委員
●これまでの主な役職
第67代千葉県議会議員、千葉県監査委員、千葉県農業委員、千葉県廃棄物減量等推進審議会会長(2期)、市議会教育未来委員長(2期)
●資格・仕事など
一級建築士、宅地建物取引士、建設宅建会社役員、社会福祉法人評議員

千葉県議会を傍聴しませんか。



傍聴に70名の皆様に参加されました。

【質問1】 強く要望いたしました

今回イノシシによる被害に対して、捕獲や侵入防止の強化に取り組んでおり、今後、くくりわなの検討や狩猟免許の取得補助など、様々な対策を講じていくことを確認しました。有害鳥獣による被害は、全国的にも大きな問題となっており、特に、イノシシは、農作物被害のほか、一度、人家周辺に出没すると、人に危害を与えるだけでなく、時に死に至る事故も発生する等、身の回りにさし迫る深刻な問題であると考えております。せっかく、丹精込めて栽培した農作物が被害を受けることで生産意欲を一気に減退させ、農業をやめしてしまうことにもなり兼ねない状況にあることを危惧しております。私は、被害に遭われている地元の農家の方から、「イノシシに生活を奪われる!」といった切実な声を聞き、農家の方々の不安や怒りは計り知れないものがあると実感しております。またイノシシの数が増えています。繁殖率が高く、1年に2回子供を産み、1回に10頭も生まれるイノシシもいるそうです。「山よりでっかいイノシシは出ん」ということわざがあります。平成30年3月5日の朝日新聞の折々の言葉でこの「ことわざ」が取り上げられていました。解説では「野生の動物が突然現れて、最初は恐ろしくて体が

がくがく震えるだろうが、じたばたせず悠然と構えていたら、そのうちどこかに失せる。事を過大に見すぎておるおるするうち事を見誤る」と記されていましたが、今の事態はこれとまさに反対であります。じたばたせず悠然と構えていたら、農作物は荒らされ、緑の丘工業団地、あすみが丘や越智はなみずき、菅田の街の中にイノシシが出没して食べ物をあさり、市民や子どもが被害にあうようになってしまいます。イノシシにとっては気の毒なことですが、イノシシの異常な繁殖により生態系のバランスが崩れ、山から街に野生動物が食べ物を求めてやってくるのです。街の安全と本市の農家の方々が安心して農業を営み、若者が希望を持って就農できるよう、イノシシの数を減らすための捕獲や周辺からの侵入防止など、積極的な対策を推進し、被害防止に繋げていくことを強く要望いたします。

